

こころの「？」をときほぐします



# カウンセリング・ルームから

第5回 「女の子らしくなってほしいんですけど…」



小学4年生の娘が、ちっとも女の子らしくありません。女の子たちと遊ぶよりも男の子と遊ぶことを好み、服装もズボンばかりでスカートが嫌いなようです。そろそろ身体的にも女性らしく成長してくる時期なので、親としてはそのような恰好や言葉づかいを身につけさせたいと思っていますが、全然言うことを聞きません。このままで大丈夫なのかと心配です。

## 先生のカウンセリング

### 「男らしさ」「女らしさ」

「男らしさ」「女らしさ」という言葉の使い方は、現代ではかなり複雑なものになってきています。「性」と言った場合、一般的には「生物学的性」と「心理・社会的性」(ジェンダー)の2つの意味が含まれていますが、ここではジェンダーを心理的性と社会的性に分けて、生物学的性も含めた3通りで考えてみたいと思います。

下の表を見てください。

	男	女
生物学的性		○
心理的性	○	
社会的性		○

表の例は、身体的特徴は女で、社会的にも女として振る舞っていますが、精神的には自分を男だと感じている人です。この場合、性の自己認識と周りが自分を見る目の食い違いから、生活上ストレスを感じる事が多くなります。

発達過程において、心理社会的な「性」が明確に表され、区別され始めるのは小学4～5年生の頃からです。先ほどの表に当てはめて考えると、相談者の子さんの場合、3年生までは生物学的性が女で、心理的性、社会的性が男というあり方で過ごしていたわけですが、4年生になると身体に女性的な特徴が現れ始め、親も子どもを女として見るようになってきます。つまり、社会的性が女になってきたわけです。

## 違いは「魅力」個性として捉えよう

今後、このお子さんにはいくつかの選択肢があります。一つはこのまま生物学的性Ⅱ女、心理的性Ⅱ男、社会的性

Ⅱ男というあり方。この場合はとてもボーイッシュな人になりそうですね。または生物学的性Ⅱ女、心理的性Ⅱ女、社会的性Ⅱ女というあり方。これは最も一般的な性別選択です。おそらく、生活上最もストレスを感じにくい生き方になるでしょう。

また、最近では、医学的に「性同一性障害」の診断が確定し、本人が性転換手術を望んだ場合に限り、生物学的性を女から男にするという方法が可能となりました。このように少し考えてみただけでも、「性」のあり方は様々で、絶対的なものはないことがわかります。このお子さんのように、ボーイッシュであることも、魅力的な女性のスタンスとして、社会的に確立されており、何の問題もありません。

**カウンセラーの  
プロフィール**



**丸山 明先生**  
1988年生まれ。臨床心理士、近畿大学附属小学校・中学校・高等学校力カウンセラー、近畿大学附属病院臨床心理士。共著に「夢」 精神科臨床サービス。これだけは知っておきたい 精神療法とカウンセリングの基本 (監和書院)。「学校教育を変える別視点」(万葉集)など。

## 保護者さまへ アドバイス

「性」のあり方は様々、生き方として受け入れてください。

上記したように、「性」のあり方には様々なパターンがあります。しかしその違いが、どう「違う」のかはあまり重要ではありません。ただ、「違い」がなければ「類似」を見つけて「似て」を認め、その「似て」の意味でも「違い」を受け入れることが大切なのです。今回の相談者のケースのように、「性」のあり方を周りが決定してしまおうとするのではなく、親は子どもの「性」の選択を、生き方の問題として受け入れてください。

「性」のあり方は様々、生き方として受け入れてください。上記したように、「性」のあり方には様々なパターンがあります。しかしその違いが、どう「違う」のかはあまり重要ではありません。ただ、「違い」がなければ「類似」を見つけて「似て」を認め、その「似て」の意味でも「違い」を受け入れることが大切なのです。今回の相談者のケースのように、「性」のあり方を周りが決定してしまおうとするのではなく、親は子どもの「性」の選択を、生き方の問題として受け入れてください。